

第五週

建國の話

今週は神話が多い。神話こきくも、幼稚園ではむづかしいのでは無いかなき、一寸疑念が起らぬでも無い。それは一般に神様の名が長かつたり、現實はあまり遠々しいこころなきがあつたりして、しつかりこ想念が浮んで來ないのではないかと思はれてつい億劫になつてしまふ。

神話の中でも因幡の白兔や、海彦山彦のやうに一篇が纏つてゐればまことに話しいゝが、建國の話こいへば漠然としてゐるので、適當に選ばねばならない。それには日本童話寶玉集(上卷)の神話篇、中世界の誕生や、國史美談の上卷なきを探して見るこ、建國の話として材料がある。話方はごく平易に工夫する。伊奘諾伊奘冊の二神が、日本の國の礎を定め、それから淡路島、四國、隱岐、九州なきの島々をつくり出されるこころ、或は又人間の食物を司る神が「飯

よ出る出る」、「魚よ出る出る」、「獸よ出る出る」云つて、是等の品々が、あちこち澤山出て來るこころなきは、面白がる話であらう。

第六週

爆彈三勇士

戰爭のものにして凡そ最も手近な興味深い話であらう。

これがすつこ遠い昔のものならまことに扱ひいゝが、その點は、まごで戰つたのであるかこいふ事については最も云ひ難いので話する時、敵についてはごくあつさりこ扱つておいて、勇士の行動をしつかりこ話しておき度いこ思ふ。

第七週

笑ひ話

年長組になつたので、いくらか意味でわかるおかしさこいふのがあつてもいゝ。「三りんりん」の話は、いつもの集

りの時に誰々はおはなし、誰は唱歌を豫め約束しておいた。その日お話しいふ約束の子が、みんなにときかかせてくれた話。話そのものも面白いけれどよくもこの筋を覚えてられたものさ感心したが、筋が簡單で事柄をくり返してあるからまことに覚えいゝ處もある。

浦島太郎 (幼兒演出)

もうこの頃になるさ、よく見せて貰ふ人形芝居のたいはいはすつかり覚えてしまつてゐる、よほぎ新しいものでもあればちつと見物してゐるが、さう／＼新しい人形

観 察

第五週

まめまき(年少組参照)

第六週

梅の花(年少組参照)

南 天

雪うさぎ等をつくる時この赤い實をつかふ。きれいな赤

芝居を見せるのは實際行ひにくい。そこで舌切雀、浦島太郎などはすつかり筋を覚えてしまつて、見てゐるのよりも自分にやつて見たいのであらう。職員室にいつの間にか子供がはいつて来て、戸棚からさり出して人形をおざらせてゐる。そこで臺詞さぼりで無くとも、舞臺を室に運んでやつて、人形を與へて、始めは先生が舞臺裏にしがんで指導しながら演出させる。これをくり返す中に自分達だけでも出来るようになるようにする。

い可愛い、實を斯うした遊びに使ふことはうれしいことだ。

第七週

第八週

年少組参照

第九週

物さし、秤

いよ／＼小學校へゆく日が近づいた。大きくなつたさ